

「憧れ、目標の存在になる」

◇島原商工会議所会員大会◇

(フラスカ男子日本代表主将)

川村伶さんが記念講演会



講演を行う川村さん

「島原商工会議所」(満井敏隆会頭、会員事業所991社)の「令和6年度会員大会」がこのほど、島原

市新湊1丁目のHOTEL

シースサイド島原で開催され、

フラインドサッカー男子日本代表主将、アクサ生命保

険(株)コミュニケーション&

フマネジメント」と題して

記念講演会を行った。

川村さんは1989年2

月13日生まれの大府東大

阪出身。5歳の時にぶどう

膜炎を発生し、その後、

網膜剥離を起して視力が

低下し、11年前全盲とな

る。小学校時代は少年サッ

打ち込む。2007年、進
学した筑波技術大学でフ
ラインドサッカーをスタ
ト。11年に同大学保健科学
部卒業後、あん摩マッサー
シ指圧師、鍼灸師国家資格
を取得し、同大学東西医学
統合医療センター臨床研修
生、翌12年、新潟県立新潟
盲学校助教授に就任した。

所属チームはパペレシア
ル品川(背番号10、ポジシ
ョンはフィールドプレーヤ
ー(FP))。切り返しの鋭さ
と豊富な運動量、ゴール前
での決定力が持ち味。代表
通算84ゴールは、日本人最
多。

講演会で川村さんは、フ
ラインドサッカーの魅力
を伝えるために▽フットサル
のルールが基本▽5対5で
試合を行う▽FP4人はア
イマスクを着用▽GKは晴
眼者または弱視者が担う▽
ボールは「シャカシャカ」と
音が鳴る▽ボールを奪いに
行く時は「ポイ」と声を出す
▽攻撃側にはガイド(コー
ラー)がゴールの位置と距
離、角度を伝えるなどの
競技説明や日本代表のダイ
ジェスト映像を紹介した。

競技大会」にも出場した。
「自身の経歴と
フラインドサッカーとの出
会い」、「日本代表に選出さ
れて」、「アクサ生命保険(株)
に入社して」、「アクサ生命
保険(株)とフラインドサッカ
ーの関わり」について説
明。「視覚障がいにより視
力が低下したが、色や文字
の記憶は残っている」、「小
学生ごろサッカー選手に
なることを夢見ていたが、
中学校で視力の問題からサ
ッカー部に入部できず一度
は夢を諦めた」、「大学で東
洋医学を学び、鍼灸師・マ
ッサージ師の資格を取得す
ることを決意。そこでフラ
インドサッカーと出会い、
感動して競技を始めた」、
「日本代表として色んな世
界大会を経験。2028年
ロサンゼルスパラリンピッ
クでメダルを狙ってい
る」、「2013年からアク
サ生命保険(株)に入社し、社
員の健康推進を目的とした
マッサージチームでセラピ
ストとして働き始めた。17
年からは広報に移動し、競
技に専念している」、「アク
サ生命保険(株)は2006年
から日本フラインドサッカ
ー協会を支援しており、地
域ビギナープログラムや体
験型プログラムを通じて普
及に努めている」、「フラ
インドサッカーを通じて、視
覚障がい者と健常者がとも
にプレーし、障がいの有無
に関係なく真剣勝負ができ
る場を提供している」など
と自身のエピソードを交え
て語った。

引き続き、視覚障がい者
と健常者がともに楽しむブ
ラインドサッカーの魅力に
ついての動画上映と聴講者
を対象としたフラインドサ
ッカー体験が行われた。
最後に「東京オリリンピッ
ク・パラリンピックで日本
代表のユニフォームが統一
され、多くの子どもたちが
自分のユニフォームを着て
応援してくれたことに感動
した。視覚障がいのある選
手が健常者の子どもたちに
応援されることが全ての人
が当たり前に混ざり合うイ
ンクルーションな社会に繋
がることを信じている」などと
話し、「他人の人生を彩る
ような憧れ、目標の存在に
なりたいたい。視覚障がいを持
ちながらもサッカーを続け
ることができていることに感謝
し、これからも挑戦を続け
ていく」と締めくくった。